



ネパール・ミカの会

平成15年春号 NO.19 3.20発行

ネパール・ミカの会 事務局 194-0035 町田市忠生2-5-36 こもれび堂内 tel 042-791-0602

ネパール・ミカの会

会長 齋藤 謹也



平成15年がはじまっています。あっという間の月日の早さですが、しっかり、今年こそ、一日一日を充実して過ごすようにして、と考えるのですが、つい身近のあわただしさに追われて、流れの速さに身をまかせてしまいます。

環境のあわただしさにとらわれず、心の芯をどかっと座らせて、おちついていきたいものですね。さて、平成14年度第7次ネパール教育支援の旅も無事終了し、まとめの時期に入っています。事務局の頑張りによって、これをクリヤーしてもらえそうです。

多分、本年4月からはNPO法人格を得ての再出発となりますが、「何か変化する事はありますか？」という質問を受けます。でも現在の所は、全く変わらないでしょうね。と申し上げる他ありません。ただ、ネパールミカの会が継続して頑張るのだ、という意味を社会に対して示すことこそ。各種助成金申請の折り「NPO法人ネパール・ミカの会」名で申請することにより、一定の信用が増すこと。会員の大口寄付に税金が免除されやすいこと等がわずかに数えられましょう。小さな会であり、ささやかな支援の形態は変化ありません。

従来にもまして、皆様の協力をお願いする次第です。また、皆さんと共に工夫を重ね、かつ魅力あるものとしていかねばなりません。ご意見を気軽にお寄せ下さい。まったなしで成長をしている子ども達、それに無条件で無心に支援活動をする人々がいる。その仲間に加わることに、幸せを感じます。「実戦」すること。そして行と学びが正しく和することに価値を見いだしましょう。

第7次「ネパール教育支援の旅」

事務局長 大谷 安宏

期 間 2003年1月26日～2月2日

参加者 齋藤会長 大石トキ 沼野和子 和田泰子 濱崎ヤスエ
松浦陽子 加藤雅子 岩田泰子 掛川和子 木幡久美子
梶 和愛 小宮山美樹 小川直子 小張泰洋 大谷安宏

1月26日

初のネパール行き4名、会としての初参加3名の総勢15名は羽田、関空で全員集結。約1.5時間ほどの延着でカトマンドゥ入り。梶氏体調不良？荷物のチェックの厳しさを予測し、手持ちとしたマルチメータも何とか無事通関。Hバイシャリ入り。

1月27日

・カトマンドゥ日本語学院視察 1965年創立。

教師18名内4名日本人。現在生徒85名授業を見学、弁論大会のリハーサルを聞く。大石さん激励挨拶。

霧が厚く飛行機の発着が大幅に遅れていたが、ラマさんの交渉でポカラ便をバイラワ行きに変更。雲は多いがヒマラヤの峰々は望める。タンセンは雨模様。3年前の中間調査では夕立にあったが、ネパールでの雨は珍しい。



ナグロレストランで学長、教授、校長ら12名との夕食会。

トリブヴァン大学副学長	ラメショー・マン・バジマヤ
” ”	ジワン・バハドゥ・タパ
” ”	ラメシャ・ナラヤン・トリプティ
シリナガルサイエンス校	チャタラジ・シャカ
” ”	ディレンダラ・パルサド・シレスタ
トリブヴァン大学々長	チョレショワル・シャルマ
ミレニアムサイエンス校理事長	サントス・タレ・シャレスタ
パドゥマパブリックナムナ校々長	レクシム・ウパドハヤ
ミレニアムハイスクール副校長	アンバー・ラジ・バスネット
セン・セカンダリー校々長	ミーン・バハドゥ・K・C
モホンカニヤセカンダリ校々長	ダー・プラサド・バジャチャヤ
” ” 教員	デビ・プラサド・ダカール

1月28日 期待したヒマラヤは小雨の厚い雲に遮られ、時たま稲光までも。残念。
初めての人にヒマラヤの峰々を見て欲しかった。

・トリブヴァン大学理系校見学

同校にて合同図書・計測器贈呈式

トリブヴァン大学文系校	101冊	¥57000
" 理系校	58冊	¥40000
シリナガルサイエンス校(2校?)	97冊	¥39000
モホン女子校	88冊	¥24000
ミレニアムセカンダリ校(2校?)	79冊	¥31000
ジャナタ(JVT)小中高校	89冊	¥18000
パドゥマ・パブリック校	70冊	¥20000

上記9校に582冊を寄贈し延べ約3000冊となる。

今日までに延べ12回の車への積み下ろしと、1冊毎に3ヶ所会のゴム印を押してくれたラマさんに感謝。

2企業からの支援計測器をトリブヴァン大学理系校、シリナガルサイエンス校に寄贈。

・ジャナタ(JVT)小中高校視察

タンセンでは歴史のある学校で1350名(女子35%)

この校舎を借り教員養成施設タンセンマルチプルキャンパス300名(女性50%)がJVTの始業前の6:00~9:45に授業。

ルンビニ教員研修のカリキュラムが組めるか期待。

・パドゥマ・パブリック校視察

新規図書支援校 600名

・バラヨン・タラ・ダワン校視察

10プラス2の2にあたる学校

・ミレニアム・セカンダリー校視察

2年前から図書支援のプラス2校 300名

・ワーキングチルドレン校

住み込みで働く子供の学校。仕事の合間に通学。6~14才の30名
小4までのレベルを教育。 女性教師2名ボランティア

・モホン女子校

425名 紙コプターと歌で交流

・セン小学校

要請のあったパソコン一式寄贈セッティング。 ¥83000

教員研修には前向きな支援協力を確認

700名 テニスボールで交流

・市役所表敬訪問は時間切れで中止する

シリナガルHにてルンビニでの文具仕分け作業。梶さん体調不調

1月29日

タンセン~バイラワ~ルンビニ。

・タンセン準看護学校視察



シリ・スンディー小学校落成贈呈式

雨の上がった陽光に真っ白な3校舎、向い側の職員室は輝いていた。村関係者、教員、村人、子供たち500名ほどの盛大な落成式。地域・学校代表者の謝辞の後会長に続き今回の資金提供者大石さんの挨拶、和田さんのネパール語への通訳に大拍手。大石、和田親子により各部屋のテープカット。

- ・シリ・アディアリ小学校視察
- ・マホマディア小学校視察
- ・シリ・マズワニ中学校視察

1年生43名 2年生40名途中入学の数人を除き制服着用。今年の寒さに制服だけで寒そうな感じ。今村さんの写真寄贈。青沼さんの写真を全員に配布。記念写真

- ・シリ・マズワニ小学校視察
- ・マズワニ村保健センター視察

地域での保健センター建設が進行中。保健婦風邪で不在。建設完成をみて支援内容の検討

- ・シリ・シリ・ラム小学校視察
- 敷地内に中学校2教室外壁まで建設中
- ・シリ・ルンビニ小学校視察

ルンビニ地区学校長との懇談会

ルンビニ公園前のレストランで夕食を兼ねて教員研修、移動図書館の提案について意見交換を行った。

出席者	シリ・マズワニ小学校長	ムキヤ・ラム・チョウダリ
	シリ・シリ・ラム小学校長	ハリムラ・ティルパティ
	シリ・グルワニマイ小学校長	バッチソ・プラサド・パル
	シリ・アディアリ小学校長	モホン・プラサド・ヤドゥ
	シリ・ルンビニ小学校長	クリシュナ・パサード・パンタ
	シリ・スンディ小学校長	ソマイ・プラサド・ダオル
	ヤナトラ八小中高校長	

・会長挨拶

校舎建設を新たに3校要請があったが建設は一区切りとしたい。ルンビニ各支援校の教育指導力の向上策として、各校長のタンセンの学校視察、タンセンの先生とルンビニでの交流、図書館建設等提案したいが各校長のリーダーシップが不可欠だ。教育向上に関する手段について意見をお聞きしたい。要望が多岐にわたり早急な対応は難しいが継続して支援を考えたい。この地区の女子の就学率の向上は皆さんの努力のお陰と喜んでいる。

・スンディ小学校

ルンビニの子供たちのレベルアップに教師のタンセン視察等の話は教育レベルの高い所なので大変有意義。タンセンで学んだことを少しづつ真似し向上していくと思う。ミカの会に建物を建てて貰ったが中味が良くならなければならず大変良い提案だ。床に座って学ぶ子供たちに机と椅子がほしい。この地区は全体に貧しい。これからもゆっくりとした支援を望む。中間調査の際も要望を出し恥ずかしいがさざるを得ないのが実情だ。

・ヤナトラハ小中高校

学生が多く教室が足りず困っていたが5教室を支援してもらい村の者は皆喜んでいいる。お陰で天候に左右されず授業が出来る。

タンセンとタライ平原とは教育レベルに大きく差がある。我校もタンセンレベルに上げるよう頑張っているが、周りの環境のため伸びていない。

小中高校の高校でさえ床に座って学んでいる。柵もない。

・シリ・シリ・ラム小学校

中間調査の際の要望は机、椅子、井戸。生徒数が増えている。授業内容のレベルアップは大切だがどうしてよいかわからない。研修という話にとっても喜んでいいる。

・アディアリ小学校

50年教室が足りず困っていたが建設支援に喜んでいいる。柵を設けてほしい。

すぐにタンセンのレベル難しいが皆の協力によっていつかは出来ると思う。

・グルワニマイ小学校

扇風機4台 (Rs. 2800 × 4 = Rs. ¥18000) を頂きありがたい。

あまり云うと恥ずかしいが1クラス2台あると良い。今の問題は校庭が狭く協力願いたい。新しい理事会を開き村人、学校の協力で1教室建設予定。床に座っての授業。

タンセンという文化の高い所の見学は有効。校長1人の力ではレベルアップは難しい。先生方の協力が必要。タンセンから来て頂きディスカッションが出来れば良いと思う。ルンビニ地区の先生の話し合いの場が出来ればと思う。

・マズワニ小学校

21年前タンセンに教育研修に行ったことがあり、変っていると思う。

見学することは大変メリットがあると思う。

ミカの会の増設、中学校の開設に感謝している。制服にも感謝。

次は高校にしようと考えていいる。これもミカの会のお陰。柵が欲しい。

Q and A

Q . 会長

机、椅子は自分たちで作れないのか？ 皆で金を出すなり、村の予算化を働きかける努力するなり。そんなに大きな予算ではないのでは？

A . 一番の問題は周辺に教育に関する認識がないこと。公立学校は政府の学校で政府がやることと思っっている。村人は建設も政府がやっていると思っっている。開校式に村人を呼んで外国の力で建てていることを知らせていいる。

A . スンディ - の場合周りが貧しい。働く場所はレンガ工場だけで3食たべられない。机、椅子に約2万ルピーかかる。ノート、エンピツは親にとって有り難い。

Q . 会長

掃除の行き届かない学校があり、施設管理をしっかりやって貰わないと支援する人に理解を得られない。学校の清潔 心の清潔 学校の維持を。

高学年になると就学率が落ちる。小学校くらいは卒業させてやりたい。

- Q . 大谷 校長はタンセンに研修に行く先生の選抜はできるか？
- A . 出来る。
- Q . 大谷 研修期間はどの位の期間が効果的か？
- A . ミカの会はどのように考えているのか？ 各校から1人なら1ヶ月間。
- Q . 大谷 タンセンから呼んで集合研修をする場合どのような形がとれるか？
- A . 個別の学校での実施は難しい。
- A . 中心の学校を選んで集まる。例えばスンディー -、ヤナトラ八校
- Q . 会長 7年ルンビニに来ているがマズワニ村、サクロンパカリ村だけは村長とも親しくなつた。村長とも親しくならねば予算配分など難しい。シリ・シリ・ラムは独自の力で中学を建設しており素晴らしい。村長、郡長も含め政治の力を借りての学校の予算化も大切。村長とも接して予算増加要請をするには？
- A . 国が問題で村に予算が入ってこない。柵を作るのに1万ルピー。時たま予算がくるが足りない。
- Q . 今日、学校を見ると柵が壊れて、鉄条網を踏みつけて歩いている。なぜ、修理をしないのか？
- A . 1万ルピーでやると品質が悪く直ぐ壊れる。政府の予算で病院を作るとする。チェックする人が来た時OKであればその後すぐ壊れてもそのまま。
- Q . 大谷 校舎建設は一段落と考え、教員研修の他、ミカの会として図書館を考えているが、1教室くらいを作る場所はあるか？
- A . 土地はあるがセンターにならないと難しい。スンディーあたりがいい。
- Q . 維持管理をどう思うか？
- A . 安全性は大丈夫。8年前の時計は今もある。
- Q . 会長 日本では道路ふしん、グラウンド作りなど父兄がやっていたがここは？
- A . 山の方ではそのような習慣があるが此方ではあまりない。一番の問題は政治家、理事長になるには選挙があり、ある党のひとがなるとその他を支持している人が付いて行かない。
- Q . 会長 ミカの会で資材を提供したら、村人の協力は得られるか？
- A . 75%出来ると思う。資材を貰って村人が協力して建てるのは良いこと。永くなると人件費など支払いも必要になる。
- Q . 沼野 校長の任期は何年か？
- A . 行政が決めることで分からない。大谷 教員研修に関し、ミカの会で案を作るので皆さんで検討してほしい。先生方のやりやすい方法に協力するが良い計画にするのは皆さん方である。
- 会長 閉会挨拶

マオイストの関係か夜遅くなると警察の監視が厳しく1人歩きは無理で討議に充分時間が取れなかったが有意義な会となった。午後8時閉会。グルワニマイの校長は帰る手段がなく我々のバスで送る。

教員研修 校長のタンセン視察費 ラマ氏意見

Rs . 1000 / 日 宿泊、食費はこれで任す。

バス代 往復 Rs . 200

ルンビニ地区で校舎要請新規に3校ある。

1月30日

- ・ルンビニ公園観光。 齋藤会長による物故者供養。
- ・シリ・グルワニマイ小学校視察
今村副会長からの写真提供
- ・シリ・ヤナトラハ・ハイスクール視察
学校は休校。植樹の木は元気に育っている。
昨年届けたテニスボールはすっかり毛もなく磨り減っていたが使われていた。
- ・マヤ夫人生誕地 観光は雨のため道路状況が悪いとの情報で中止しパイラワ観光後カトマンドゥへ。

1月31日

- ・マウンテンフライト。バザー品購入。
- ・齋藤会長、小宮山、小川保育施設視察。

・バドゥマ・カニヤ女子校視察

書棚6本寄贈確認 購入額未確認。講堂の建設要請あり校庭もありバドミントンなどの親睦試合を次回申し入れ

- ・バタン観光
- ・ナガルコット クラブヒマラヤ 雨

レッスン・ヒリリーの生演奏に合わせての今回の踊り手は大石さん



2月1日

- ・バクタブル観光、カトマンドゥ観光。ショッピング。
インドから帰ったジャンモさんと合流
- ・空港へ 梶、大谷繰上げ帰国 大石、和田、木幡さん延滞

2月2日

- ・上海～関空～羽田
齋藤会長、梶さん関空で別れる。忙しい第7次教育支援の旅本当にごくろうさまでした。

最新ネパール情報

カトマンドゥの道路がJ A I C Aにより驚くほど綺麗になり、街並みも見違える感じ。信号もあちこちに設置され、見方の指導がされている。

ポカラ～タンセンの道が良くなり今までの半分の4時間程度とか。

観光客の数が極端に少ない。その分物売りが兎に角つつこく蠅の様に付き纏う。何度「ノン」「ノン」と云ったことか。少しまともな物売れッ。

マオイストと政府との話し合いが合意された。今後の和解に期待できそう。

滞在中に警視総監夫妻とガードマンが射殺された。街中には銃を持った兵隊が目立つ。

タンセンの居酒屋「ダ～アン」の親爺の手術の傷は30cmはあり大きい。

タンセンの定宿シリナガルHの八木さんが餅を焼いた暖炉は無くなった。

しかし、危なっかしい継足しの4階建ての工事はそのまま。

カトマンドゥ、ポカラ、バイラワでは携帯電話が使えるようになった。

日本円で3万円だそう。ラマさんが持てば急ぎの時は助かるなあ。

ラマさんが気功を習得していた。「胸が痛い」と云っていた梶さんがタンセンで受けた。「う～うん。楽になった」本当ですか？その後呑み会。

マヤ聖堂に巨大な建物出現。あの場所にはそぐわない。ヒンドゥ風とか。

会員岩田泰子さんご夫妻がパタンにトイレを建設の資金提供の提案に地域住民、行政を動かし水洗トイレが完成した。

ダサイン祭と中間調査

副会長 今村 旭

去る1月26日から出発した第7次ネパール教育支援の旅も、シリ・スندیー小学校（大石トキ・スクール）落成という大事業を、無事に成功のうちに終わる事が出来、何より喜ばしい事でした。昨年の10月に青沼さんと私の二人で出かけた中間調査の時は、工事も半ばでしたが、ラマさんの現場監督よろしく、約束の時までに完成した事は、いつものネパール流の「ビスタリ・ビスタリ」の考えからすれば、立派な事と認識を新たにしました。

10月の訪問の時は丁度ダサイン祭が始まった直後のため、どこに行っても祭の休みで、国中の人々がリラックスしてしまい、何事も「ダサインだから」の一言で、学校にも児童がいなくて一寸淋しいものでした。

「日本もダサイン祭のように一ヶ月くらい休みたいなあ」と私が言ったら、トリファン大学長のシャルマ先生が「だめだめ、そんな事したら、日本もネパールみたいになってしまうから」と。どうやら日本人は忙しく働いていないとだめらしい。

祭にあやかって、嬉しかった面もあった。セン小学校校長のミンパハドゥ先生が「今まで何度もタンセンに皆さんが来ているのに、私の家で食事を一回もしていない。何度誘っても誰も来てくれない。今回は是非遊びに来て下さい」との申し出に、一同遠慮して「お茶だけなら」と返事をしたのですが、「とにかくお茶を用意するから」との事で、そんなに言って下さるならとお言葉に甘える事となった。

ラマさん、ジャンモさん、青沼さん、佐藤富美子さん、私と、車のドライバーの青年との一同6名で校長の家を訪問した。立派な家で家庭菜園も有り、果樹も色々と植わっていて、クリーム色の外壁のオシャレた外観の家であった。ダサイン祭のしきたりで、額に真っ赤にティカをつけてくれ、耳かざりに植物の種を発芽させた稲穂の様な「お飾り」をはさんでくれ、すっかり気分はネパール人となる。一家総出での調理された、おいしいカレー料理を十分に楽しみました。

この時の話の中で出た、セン小学校のパソコン援助の要請の件もすでに解決したとの事で、食事の会も有効性がありすぎるくらいでした。これもダサイン祭の神様の良いプレゼントなのでしょう。

一行のうち語学研修で9月からネパールで勉強中だった佐藤さんのネパール語での会話力の素晴らしさは、短期間での特訓で、本当に私達から見れば文字通り「自由自在」と感じられ、うらやましい限りでした。以後カトマンドゥでの民芸品の購入の値切り交渉の場面等、なまじの男にも出来ない迫力万点の連続で、語学は本当に身を助けます。

会員の皆様も、これからはもう少しネパール語を勉強して、現地の人々と気軽に会話が出来、気心が交流出来れば、もっと素晴らしいネパールでの時を過ごす事が出来る事でしょう。私にはもどかしさを大いに感じた旅でした。

ナマステ。

NGOに思う

副会長 坂 育夫

中国で植林事業をしているHGO団体が、外務省からの援助金を流用したという事で、新聞ざたになった。こんな事をしているあいだにも、砂漠がどんどんひろがっているんです。

テレビの事務局長の悲痛な叫びが耳に残った。この団体の町田、相模原支部の人とは、第一回の夢広場の時からの仲間である。学校の先生方が多い。ずいぶんまじめな会に見えた。多くの支援者との植林ツアー等を通じて組織の拡大も順調に見えた。なんで？多くのNGO団体の信用が損なわれる不安もある。政府系の支援金はその支出を削減する理由として、利用者のずさんさをアピールする事がある。もしこれが、そのような理由のために利用されたとなると心配である。日本の海外支援も、ここ数年で飛躍的に伸びて定着した。政治的な干渉をしない日本のNGOは、開発国の庶民にとって本当にありがたいものであるはずだ。しかし、この世界的不況の長期的にともない政府をはじめ企業も、支援金の縮小をよぎなくされている。それはそれで理解できるが、せっかく我々の間にもNGOの意義や世界的な福祉ボランティアの必要性が定着してきたのに、このことで水をさされるのが残念である。ミカの会はまさに、優秀な事務局のみなさんのおかげで、日本一じゃないかなと思うほどせいかくなすうじまで計上でできており、何の不安もない。ただ、無理する事はないが、われわれが築いてきた援助の灯を縮小させることは、多くの支援を求めて、待っている貧しい国々の人達に対し残酷な話である。砂漠緑地のNGOの事務局長は、確かにひどいずさんなものであったのだろう。せっかく生えた緑の木々を枯らす事のないように、是非ともがんばってもらいたいものだ。

入会5年を経た年頭に思うこと

青沼 義信

ミカの会は今年創立7年目を迎えますが、これまで支援の柱であったルンビニ地区の校舎建設も一段落し、今後はルンビニ地区の教員のレベルアップや移動図書館の創設等の新しい課題に取り組むと共に、組織も4月にはNPO法人としての活動に入る等、会としての活動内容の変革時期にきたのではないかと考えております。

特に新しく承認されるNPOについては、今までの任意団体より社会的な責任が重くなり、活動内容の実績を東京都に申告し承認を受けるばかりではなく、社会に対し情報公開もされることとなります。

又、NPOは法人ですので、税務署や市役所へも届けをし、決算時には申告もしなければなりません（活動内容が完全なるボランティア活動ですので非課税対象法人としての申請を行ないます）ので、収入支出の内容を細かく分類し適切な処理をしなければなりません。会計担当としては皆さんの理解ある協力を得ながら、より一層心して管理、処理していかなければならないと考えております。

さて、私も入会して5年が過ぎ、その間教育支援の旅で3回、中間調査で2回訪問し、ネパールの人々に会い子供たちとの交流を重ねてきましたが、特に私たちが係っているルンビニ地域の人々の生活環境は、同じ地球に生まれたにも拘らず私たちと同じような文明を享受できずに居る人々があまりにも多い事にやりきれない思いに駆られることが多々あり、何とかして生活環境改善の応援をしていく事ができないか！と考えております。

昨年の中間調査で訪問の際、以前から高学年ほど就学率が悪くなると聞いていましたので、ルンビニ地区支援7小学校、2中学校の過去5年間（シリ・ルンビニ小学校は3年まで、シリ・マズワニ中学校は2年まで）の学年別男女別生徒数推移を出してもらいその内容を分析してみました。小学校のみの生徒数について見ますと、学校により違いがあるものの、7校生徒総数についてみると、会寄贈による教室の増加等々の援助もあって、5年前（1998年）1,760名が2002年には24.5%増の2,191名と大幅増となり、会の支援が実を結んできたものと嬉しく思います。しかし、学年別生徒数を見ると、2002年度7校1年生生徒合計は760名ですが5年生は246名32.4%と減少、女子に至っては1年生266名が5年生では62名23.3%と大きく減少しています。これは高学年になる程働き手として家事・家業手伝をする為と聞いていますが、将来に可能性を秘めた子供たちの教育がなおざりにされている現実を非常に悲しく思うとともに、すべての子供たちが教育を受け、将来には自分達で、自分達の生活改善の方策を考え、実行できるような体制になるよう応援をしていきたいと考えています。

それには、学校の先生だけではなく地域の保護者を交え、教育の大切さを話し合うとともに100%通学させるためにはどんな事を為すべきかを真剣に話し合い、考え、認識し、会として我々が為すべき事を見極めて支援して行くべきであり、そのような機会をつくっていきたいと思っております。

早急に結果は出ないと思いますが・・・



横浜国際協力まつり

2002年10月12日(土) - 10月13日(日)

松浦 陽子

昨年は雨にたたられましたが、今年は2日間ともお天気に恵まれました。

横浜での会場はビルの中なのでどうしても人出が限られるようです。その上外の通りでは別の催事があり、そちらに大分お客さんを取られている、と言う話しも聞きました。まして今回の場合はバザーよりも交流が主たる目的となっている感じです。

参加したビルの9階では子供たちにふさわしい世界をというテーマでいろんなフォーラムが開かれておりましたが、なかなかその会場に行って話しを聞くのは難しい状況でした。限られた人数で参加しておりましたので交代しながらバザー会場を見て廻ったり、外のステージで行われていた品木のチョウタリバンドの演奏と唄を聞くのがせいぜいでした。

尚、後から坂さんに聞いたところによれば12,000人ももの来場者があったそうで大分この横浜国際協力まつりも知名度が上がって来ているらしく、携わっている者としては嬉しいことです。来年に向けて何とかバザーの内容を工夫していかなければ、、、と思いました。又中間調査前日にも関わらず青沼さんは朝から、今村副会長は午後には駆け付けて下さいました。浜崎さん、山下さん、井上(啓)さん、ご協力有り難うございました。担当 松浦、加藤末、和田

【編集後記】

毎回の事ながら会報の発行も結構大変です。はやく皆さん電子化した原稿を用意出きるようお願い致します。作業が半分楽になります。第7回のネパール支援の旅も無事終了。第1回に参加した私にとってはもう5年以上経つのか？と感慨深いものです。イラク、北朝鮮又それ以外の国々でも罪のない子どもたちが厳しい環境に置かれています。本当に許せない事です。何も出来ない自分に憤りを感じるこの頃です。ミカが目が向いているネパールの子もたちはほんの少し幸せなのかもしれない。